

# 令和6年度 福井市木田小学校 研究

## 1 研究主題

### 探究心をもって自ら学ぶ子の育成

## 2 研究主題設定の理由

学習指導要領において、先を見通すことが困難な社会でたくましく生きていくことができる資質・能力を児童に育むことが求められている。また、そのために、児童が「どのように学ぶか」ということを意識し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業をつくることが求められている。

本校の児童の実態として、積極的に学びに向かう姿が見られる児童がいる一方で、自分の意見をもつことや意欲的に発表すること、他の意見を探ることに消極的な児童も見られる。そこで昨年度は、研究主題を「探究心をもって自ら学ぶ子の育成」と設定した。主体的に学ぶ（探究する）ことができる子どもの姿を目指して、本校における「探究の定義」「各学年の探究の流れ」を定め研究を進めた。その結果、教員がどのような場面で探究的な学習活動を設定することができるかを考え実践することで、子ども達に主体的に学ぶ姿が見られるようになった。また、他の考え方や方法等はないかを、自ら探り見付けようとする姿も見られた。しかし、児童一人一人を見ると、学習への取組がまだ消極的な児童もあり、一人一人が探究心をもって学習に主体的に取り組み、学びを深めていくということには未だ課題が残った。

そこで、昨年度に引き続き、探究心をもち主体的に学びを深める子どもの姿を目指し、研究主題を「探究心をもって自ら学ぶ子の育成」と設定する。探究心は、学級活動や児童会活動など、教科の授業以外の場面でも育むことができるが、今年度も、授業の中でどのように探究心を育むことができるかに焦点を当て、探究心を育むための授業づくりについて研究を行っていきたい。児童自らが課題に気づき、様々な面から解決方法を考え、試行錯誤しながらよりよい答えを探り出していく中で、学びを深めていくことのできる授業づくりを研究していく。児童の興味・関心を生かした授業、児童が学びに夢中になる姿を見られる授業などを考えていくことで、研究主題に迫りたい。また、福井市の学校教育方針が「学びをつなぐ・未来につなげる～『つながる』を大切にしたい学校づくり～」と設定されている。対話する場面等を工夫することでつながりを大切に、児童の学びを深めていきたい。

教員がこれらのことを意識した授業づくりを行うことで、子どもたちは主体的に学習に取り組み、学びを深める力を身に付けることができると考える。また、本校では学びをつなぐ手立ての一つとして、タブレット端末の活用を進めている。タブレット端末の活用についても、これまでの実践を参考にさらなる活用方法について探っていききたい。

さらに、一人一人が「自らの実践を語るができる教師」を目指し、今年度も「一人一研究」に取り組むこととする。

## 3 研究の重点内容






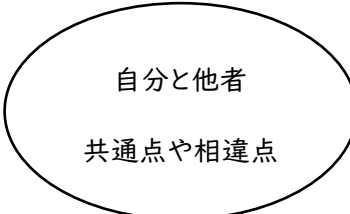

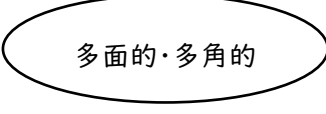

### (1) 探究心をもって自ら学ぶ子を育てるための授業づくりの工夫

本校における「探究の定義」と「各学年の探究の流れ」を踏まえ、探究のプロセスである「課題設定、情報の収集・整理分析、まとめ・表現」のそれぞれの学習活動の工夫を考え、授業づくりを研究する。

○木田小学校の探究の定義

「探究」とは、子どもが主体的に学びを深めていくことである。①子ども自らが課題をもつ、②情報を収集して様々な面から解決方法を考える、③情報を整理・分析したり、試行錯誤したりして、よりよい答えを探り出す、④相手・目的意識を明確にしてまとめたり表現したりする、という学習活動をスパイラルに繰り返していくことで、学びを深めていけるようにする。

○各学年の探究の流れ

各学年の 目指す児童の 姿	低学年	中学年	高学年
	自分で考える姿	自分たちで考え、答えを見つけ出そうとする姿	自分たちで学ぶ方法を選び、多角的に考え、解決を目指す姿
導入 課題の設定	これまでの学習・経験と結びつけて今日の課題を理解する。 	これまでの学習・経験と結びつけて課題を見つける。 	これまでの学習・経験と結びつけて課題を見つけ、自分たちで設定する。 
展開 情報の収集・ 整理分析	既習内容を使って、どの方法で解くことができるか、他に方法はないかを自分で考える。  	これまでの学習・経験と結びつけて、友達と意見を交わしながら、自分たちで答えを見つけ出そうとする。  	これまでの学習・経験を生かしながら自分たちで学ぶ方法や手段を選ぶ。 友達と意見を交わしながら情報を収集分析し、解決を目指す。 学校全体や地域社会に広げて学ぶ。  
終末 まとめ・表現	振り返りを通して、自分の感想をもつ。	振り返りを通して、次への見通しや意欲をもつ。  生活と結びつけて生かそうとする。	自分や集団ができたことをまとめ、次への見通しや意欲、課題をもつ。  生活と結びつけて生かす。

### ○主体的な学び、深い学びにつなげていくための工夫

教員がすべてを教え込むのではなく、子どもたちが知的好奇心をもって自ら進んで楽しんで取り組み、主体的に学ぶ授業づくりを通して「探究心をもって自ら学ぶ子」を育てる。

#### (具体的方策)

- ・子どもたちが自分たちで作りたい、調べたい、伝えたいと思うような課題を設定する。
- ・子どもたちが「なぜ?」「おもしろい!」と感じ、学びを深められるような学習過程を工夫する。
- ・身に付けた知識や技能を活用しながら進めることができる体験学習を設定する。
- ・生活科や総合的な学習の時間等に、初めから教師主導で進めるのではなく、テーマや学習の進め方を児童に考えさせ、見通しをもって児童主体で進めさせる。
- ・調べたり、まとめたり、発信したりする際にタブレット等の ICT 機器を活用し、児童の学びのイメージが簡単に形になることを実感させ、児童が楽しみながら自ら進んで学べる手立てを増やす。

## (2) 探究に重点を置く単元の分析

探究的な学習活動を設定することができる単元を、各学年で教科ごとに分析し実践する。昨年度の実践を踏まえた上で、単元のさらなる洗い出しを行う。また、教科書改訂に伴い新たに加わった教材についても分析をする。

## (3) ICT を活用した探究的な学習活動の工夫

探究の流れである「課題設定、情報の収集・整理分析、まとめ・表現」のプロセスの中でタブレット等の ICT 機器を活用する方法について研究する。昨年度の実践を参考にし、各学年の児童の実態を踏まえながら、活用を充実させていく。その際、デジタルとアナログの有効性を考えたり、児童自らがどのように活用するかを選択したりできるようにする。